

| 1事例目   | 2事例目   |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスC、リハビリお試し→無料で使えるサービスで場を知る機会に。</li> <li>・リハ職同行H.V→自己流のリハを専門職からアドバイスもらう、現状のアセスメントに。</li> <li>・免許返納前に、返した後の生活をイメージトレーニング(移動販売の利用、公共交通)</li> </ul> | <p>旅行達成。次は会の中心になり自分で企画や提案をすることもよいのでは。<br/>                 ご近所との付き合いに不安はなくなっている。<br/>                 家族の支援はある。自分で役割をもつために、タブレットやYouTubeで検索して計画を立てる。</p>   |
| <p>意識高く、実践できているし、すぐサービスが要る人ではない。<br/>                 社会資源を使いながら少しずつアプローチしてみる。<br/>                 免許返納後のシミュレーションが大事→不安軽減につながるのでは。</p>  | <p>訪問リハのセラピストも卒後のイメージを描いているはず。卒後イメージを共有して支援につなげてほしい。</p>   |
| <p>訪看2回/週、調理への関心を導いてもらうと趣味につながるのでは。<br/>                 能力的にはまだ可能性があるので、ヘルパーさんに調理を教えてもらったり一緒に買い物へ行ったり、興味があるものに取り組んでみる。</p>  | <p>右麻痺があるが自力で生活できている。<br/>                 介保サービス外でNsの仕事(自費の訪問看護)している方があるので関わりを持ってみては？<br/>                 (4,000円/h、月1回でもOK。車での移送もしてくれる)<br/>                 話し相手、買い物支援、体のチェック、主治医への連絡。同職同士、通じるものがあるかも。</p>   |
| <p>車を使うこと(所有)のコスト(維持費)、公共交通機関を使うこと(地域資源)のコストを比較する(明らかにすると安心につながるのでは。</p>   | <p>ご近所付き合いに抵抗も。Aさん中心に通いの場立上げも。<br/>                 地域の中で何かを担う人になれば。</p>   |
| <p>自家用車以外の方法の検討<br/>                 車を使わない生活を体験してみる。</p>  | <p>右手を活かした生活。やれること広がれば自信になるかも。<br/>                 右手を使う事を積極的に言い自信をつけてもらう。</p>  |
| <p>免許を返した生活のイメージは少しずつ。(今はできているため、すぐにたくさんは不要)<br/>                 今ある事を無くすのは不安が大きいの、少しずつチャレンジして変えてみる。</p>  | <p>近くの通いの場(工夫いっぱい、オリジナルカードを使ったラジオ体操)は、できて1ヶ月。担い手さん2人はおそらく同世代。うちひとりとは就労中の為サロン化を断念したところ。この場の担い手になってもらえたら嬉しい。<br/>                 (※CM→本人に意向確認。本人がOKならCoへつなぐ。)</p>   |
| <p>・近隣のサロン、自治会館で体操をしているので、このような活動を増やす。</p>   | <p>○訪問リハ卒業、うまくいった好事例<br/>                 ・2回/w→1回/w→1回/2w 徐々に頻度おとす。⇔数値で維持できていること確認(くり返し)<br/>                 ・卒業時のイメージを開始時にしっかり描く。共有する。→イメージに達したら自分から卒業を口にされる。<br/>                 (Aさんの場合:次の段階は、何か役割を担う。地域の資源使う。←ステップアップ)<br/>                 ・リハ+地域の資源。徐々にアイテム増やす。→自信つけて、納得、卒業できる。</p> |
| <p>車の運転について、返納したいが環境的に買い物、通院、難しいとの考えあり。中には、人生の終わりと考えられる方もいる。免許返納した後の暮らしや金銭面等、簡単に情報が得られると良いと感じる。実際に返納された方の話を聞く機会があると不安感も軽減されるのではと考える。</p>   | <p>どこかで区切りをつけるのも必要と思うので、地域の中で何かを担う人になればと思う。<br/>                 百歳体操、ラジオ体操、地域活動はしているので、3ヶ月に1回訪問し、定期的な関わりを持って継続していく。</p>   |
| <p>・介護保険外での訪看としての仕事の内容はすごく参考になった。<br/>                 ・乗合タクシーが安く利用できると良い。</p>   |  |
| <p>車を使わない生活を日々の生活の中で練習していく。<br/>                 (例:スーパーに歩いて行く、など)</p>   | <p>食器洗いで右手を使っていく練習を続けていくと、リハビリの継続や自信につながるのではないか。</p>   |

|   |   |
|---|---|
| <p>・免許返納後に困ってしまうこと、不安なことを解消していくために項目を整理していく。その後一つひとつシミュレーションして車が無くても生きがいを持って暮らしていけるように自信をつけてもらうのがいいと思う。</p> <p>・加えて、今の病状で運転が今後可能かを主治医と相談するのもいいと思う。</p> <p>・興味関心チェックシートで「歌を歌う、カラオケ」「音楽を聴く、楽器演奏」に興味があると回答している。免許返納後、買い物に行く楽しみがなくなってしまうないように、興味がある趣味にアプローチして生きていくことのモチベーションが下がらないように支援していくのもいいと思う。</p>   | <p>・本人のADL、IADLが向上してきている様子であるため、訪問リハ職と連携をしながら趣味の旅行に行くことができるように支援していくと良いと思う。</p>   |
| <p>とくし丸に相談する。</p> <p>分からないから不安なのだろうから、車がなくなった時のシミュレーションをして、こういう生活になるだろう、と分かっただけで不安は解消すると思う。</p>   | <p>通所サービスに切り替える。デイケアなど。</p>   |
| <p>免許返納に関しての不安ではあるが、運転をやめた後に下肢筋力の低下で現在の状態が維持できなくなる可能性があると思うので、今のうちからサービスCなどを行って筋力が低下しないよう提案するのが良いのではないかと考える。</p>  | <p>(皆さんの意見やアイデア出しを聞いて)</p> <p>地域のサロンへの参加や散歩で地域の方と顔見知りになって、地域に自然にとけこめるようになって、地域の行事などにも参加できるようになることが生きがいになれば、と思う。</p>   |
| <p>運転免許を返納した後の生活について具体的に何が不安なのかを本人に確認して、その不安について1つ1つ解決策を提案する。</p>   | <p>困ったことや問題点を自分で見つけて解決できているため、訪問リハビリ卒業後は、問題がまた見つかったとしても気軽に相談出来る場所があればいいなと思う。</p>  |
| <p>本人の受け入れが可能なら同行訪問や通所Cを利用して運動や生活の調整をすることも一つの方法。本人はリハビリで運動指導を受けることについては必要性を感じていない様子だが、「運転免許返納後の生活に対する不安」「一人暮らしを続けていくためにすべきこと」といった本人のニーズに着目して、運転免許返納後の生活の基盤づくりを目的とした支援もできる。(実際に通所Cを利用された方で免許返納後も自分の欲しいものは自分で買いに行くため、週に1回は車ではなく歩いて買い物に行くということに取り組まれた方がいる)</p> <p>運転卒業は難しい課題だが、ご年齢や症状を考慮すると運転技術や反応速度が低下している可能性は大きい。事故を起こす前に本人が安心して運転を卒業できるよう本人が感じている不安を細分化して、金銭面であれば実際に数字を出してみたり、タイムスケジュールであれば実際に時刻表等を見ながら時間を計算してみたりすることも不安の軽減につながるのでは。最終的には本人や家族が決断することなので、家族が運転免許返納を強く望まれるのであれば、家族からのアプローチも含めて連携が必要と考える。</p> | <p>本人の思いが「機能」にフォーカスしているリハビリに依存してしまうことが多いように感じる。機能がゴールに達しているのであれば、支援やリハビリを「活動」に振り切るのも一つの方法。本人から目標が出てこなくなっているのは、お世話をされる側からする側になるタイミングがきているということでは。通いの場の担い手になるという案も出ていたが、准看護師として仕事に打ち込んできた経験を活かせる場になる(必要とされる場になる)という点でも自己効力感の向上につながるのではないかと。</p> <p>社会資源: ゆくゆくはボランティアのグループなどがあると元気高齢者や若年障害者の活躍の場が広がるのでは。過疎地では移動手段がなければ活動範囲が制限されてしまうため、街中に出る乗合タクシーがあると移動手段を失った方の活動や参加を支援できるのでは。</p> |
|   | <p>・自分のできそうなことを改めて知る意味でも、サービスCを利用してみるのもいいのでは。</p> <p>・資格を活かして、サロンの立上げもいいと思うが、ちょっとした異変に気付いて相談につなげてくれる役割の「団地の保健室」ができれば素敵。</p> <p>・自宅で百歳体操やサロン、カフェなどを開く。</p>   |
| <p>近所でカラオケ(サークル、仲間も含め)ができる場所があればいいと思う。</p> <p>近隣の散策を改めてしてみるのもいい。</p> <p>・車のない生活のイメージトレーニング。</p>   | <p>・近隣の通いの場への参加、運営。</p> <p>・訪問リハセラピストとの話し合い。</p> <p>・旅行仲間との交流拡大。</p>  |